

# アーカイブ Data Report

NO. 144

(2021年11月24日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル5F  
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学\*・沖縄女子短期大学・学習システム研究会

(\* 岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所、沖縄サテライト校)

## デジタルアーカイブの過去の教育実践資料から得られたデータ ～教師に提供した手引書の基礎データ～

眞喜志 悦子 (岐阜女子大学)

宮城先生は、過去の実践記録を分析したデータを全員の先生方がわかるように『教頭だより』や研修会等で説明された。ここでは、宮城先生が説明されたデータの一部を紹介する。

### (1) 発問

最初にわかった時間  $\tau_0$

	Q <sub>1</sub>	Q <sub>2</sub>	Q <sub>3</sub>
小学校	10秒	14秒	20秒
高校	10秒	14秒	23秒

発問と反応時間～

[受け止める、考える、決定行動]

ポイント：考える時間を与える

①考える(課題解決の)時間を与える せめて、10秒は考えさせたい。

②発問後にすぐヒント、解説はしない(考えさせるため)

③反応が長い時間かかれば

・受け止めが困難か検討する

・発問をして考えるのに困難ではなかったかを反省し改善

(反省)

・発問が困難で考えるのに時間を要した原因を検討

④発問がカリキュラム上の必然性があったか、発問による学びの変化を検討する

⑤応答、反応

論理的で文脈のある答えができるように

### (2) 確認

発問と確認の反応時間の違い

小学校	Q <sub>1</sub>	Q <sub>2</sub>	Q <sub>3</sub>
確認	4秒	8秒	14秒
発問	10秒	14秒	20秒

[受け止める、考える、決定行動]

ポイント：考える時間≒0

①考える時間はほぼ0である

反応時間が長くなれば、

・児童にとって発問ではなかったか

・児童にとって受け止めが困難でなかったか検討、反省する

### (3) グループ・全体討論

討論の所要時間				話し合いでの課題解決			
	Q <sub>1</sub>	Q <sub>2</sub>	Q <sub>3</sub>		Q <sub>1</sub>	Q <sub>2</sub>	Q <sub>3</sub>
グループ	2.2分	3.0分	4.0分	グループ	50%	67%	87%
クラス全体	1.2分	1.6分	2.4分	クラス全体	53%	73%	87%

上のデータは、1960年代の授業を分析したもので、話し合い活動において深みがなく、形式的な話し合いになってしまった授業の傾向がみえる…これでは困る！

#### ①当時のグループ討論、全体討論が形式的であった

このため、グループ討論より全体討論の時間が短くなっている。

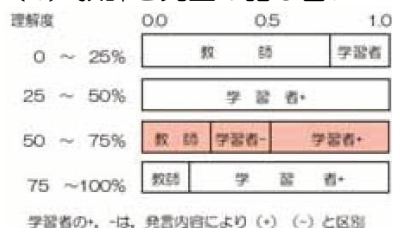
「〇〇について、グループで話し合いなさい。」皆が話し合いを終えた頃に…「それでは各グループの代表者で発表してください。」しかし、ほとんどの発表が同じような内容で、それをまとめることで全体の討論が終わる。

→ これでは深みもなく、発展性のない話し合いをただで終わってしまっている。

#### ②岩田晃先生は、グループ討論の平均時間5分、全体討論の平均時間7.2分、課題の与え方は「予想」と「調べる方法」を話し合わせた。

「グループでどうなるか予想ができれば、次にどうすれば予想が正しいことがわかるかを調べる方法を考えて話し合ってください。」このように討論を進めることで、より深みのある話し合いができたのである。

### (4) 教師と児童の話し合い

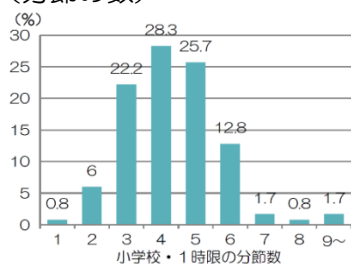


「まとめ」などで、教師と児童が話し合い課題を解決するプロセスで

- ①約50%~75%(半数以上)が理解すると、これまでの話しの内容と違った意見を出す(学習者-)
- ②見方、考え方の違った意見を出し、学びに深みを入れる

### (5) 授業の構成

#### (分節の数)



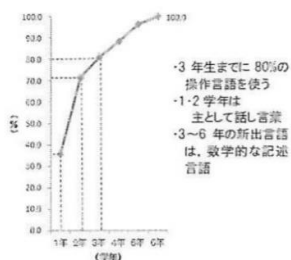
授業をいくつに区切るか

- ①学習意欲を高めるため、多くの授業では、3~6回の区切りを入れている(分節)
- ②ベテランの授業では、導入と「まとめ」に要する時間がほぼ同じであり、数分を要している

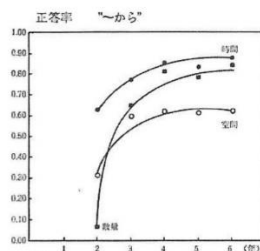
### (6) 言葉の学び

#### ①論理的思考操作に関する言葉は、図のように3年生までに多く使われている

#### ②同じ言葉でも意味によって正答率が異なることを理解すべきである



#### ①操作言語の出現頻度(学年による)



#### ②同じ言葉の意味による正答率の違い